



Sponsor a Child

クリスチャンパートナーズ

通信第 96 号

-
- | | |
|---|-----------------------------------|
| ・発行日／2016年4月15日 | ・発行所／クリスチャンパートナーズ |
| ・事務局／〒422-8053 静岡市駿河区西中原
2-7-63-111 竹澤三佳子方 | ・Tel/Fax 054-283-1721 |
| ・郵便振替口座／00150-0-134994 | ・e-mail/sunflower818@hw.tnc.ne.jp |
| | ・http://www2.wbs.ne.jp/~c-p/ |
-

イエス様との出会い

理事長 木ノ内 一雄

今年の復活日（イースター）は3月27日（日）でした。新約聖書のヨハネの手紙20章1節から18節には、マグダラのマリアと復活されたイエス様との出会いが書かれています。イエス様は金曜日に十字架につけられ、墓に納められました。次の日は安息日でしかも過越祭の初めの日でした。日曜日の朝早くマグダラのマリアが墓に来ると、墓石が開けられ、墓が空になっていました。驚いたマリアは弟子たちのところに行き、そのことを告げました。弟子のペトロとヨハネが墓に来て見るとマリアが言った通りでした。主イエスは生前ご自身の苦難と復活を繰り返し弟子たちに教えられていました。しかし弟子たちを含めて誰もそのことを理解していなかったのです。

二人の弟子が家に帰った後もマリアは墓で泣いていました。師と仰ぎ慕っていた主イエスの遺体がないのは耐えられませんでした。すると二人の天使が現れ、「婦人よ、なぜ泣いているのか」と言いました。マリアは「わたしの主が取り去られました。どこに置かれているのか、わたしには分かりません」と答えました。するとマリアの後ろに主イエスが立たれ、「婦人よ、なぜ泣いているのか。誰を探しているのか」と言われました。主イエスは明らかに生前と同じではありませんでした。もし同じであればすぐ分かったはずです。マリアはてっきり園丁だと思い、「あなたがあの方を運び去ったのでしたら、どこに置いたのか教えてください。わたしが、あの方を引き取ります」と言いました。すると、その人は「マリア」と言いました。マリアは「わたしの先生」（「ラボニ」）と言いました。マリアはその人が主イエスだと分かったのです。生前の主イエスとの関係が復活したのです。

マリアは世の終わりの時、イエス様に会えるということは知っていました。しかし、彼女が泣いていたのはこの世でもう再び会うことができないことを悲しんでいたのです。しかし、この世で再び会うことができるのであれば、もう悲しむことはないのです。主イエスが生前、弟子たちに約束されていたのはこの世で再び会うことができるということでした。ですからマリアに対し二度も「なぜ泣いているのか」と言われ、更に「だれを探しているのか」と言われたのです。

主イエスは40日後、天に昇られました。しかし、霊において今もわたしたちと共におられ、生前と同じような関係を持つことができるのです。わたしたちと生涯を共にし、永遠の命にまで導いて下さるのです。わたしたちは一人で生きるのではないのです。

大学院で勉強中の奨学生ダミさんから、昨年末に、高橋宣教師を通して便りが届きました。翻訳は稲葉夫人にお願いしました。

主の御名を賛美します

私、ダミはおかげさまで元気に暮らしています。大学在学中に沢山の学費やご支援をいただきまして、心から御礼を申し上げたいと思います。神様は私が必要としているものを全てご存知で、宮澤様を始めクリスチャンパートナーズの皆様を通して私を助けて下さいました。

現在、私は論文を作成中です。2016年1月に論文を提出して卒業したいと考えています。私は一生懸命に計画を作り、実行をしています。担当教授との面談は私の仕事の都合と教授の時間を合わせるのが難しく、まだ実現していません。現在の状況から時間が足りないために、私は塾での仕事を辞めて、会計事務所で働いています。タンジュンブラ大学とアンジュンガン神学大学で稼いだ給料は一学期ごとに支払われます。

この手紙にありますように、1月の卒業を目指して彼女は一生懸命頑張ったのですが、残念ながらまだその時がきていないようです。彼女は優秀な成績をおさめており、昨年もタンジュンブラ大学教育学科・インドネシア語教育部門で総合成績 3.75「大変良い」の評価を受けています。この2年間、彼女は勉強に仕事にと精魂を傾けてきました。彼女の熱い祈りが聞かれ、その真摯な努力が報いられますようにご加禱ください。



右から二人目がダミさん

最近大学の中では反発する学生が増えています。彼らは大学の勉強の目的をあまり知らず、それぞれの人柄、性格よりも点数のほうが大切と思っています。両方大切なことを彼らは知らないのです。私は彼らに国民や社会、世間は頭の良い人より、人柄や人生の価値観を持っている人のほうが必要とされていることをよく伝えました。人柄や価値観でそれぞれが持っている能力、知識が社会に役立つと考えています。昨年3月、私はボゴール市で行われた「インドネシア・クリスチャン教授国内キャンプ大会」に参加し、沢山の経験を得ることができました。

今まで数えきれないご支援、ご協力とお祈りをいただきましたことに心から感謝いたします。神様が皆様の上にたくさんのお恵みと祝福を与えてくださいますように。

ニラ・シャンティヤラさん 神学校卒業



卒業式のニラ

2月6日のATI神学校卒業式で、奨学生の一人だったニラさんが無事卒業されたとのこと。以下は、彼女が卒業論文試験終了後に書いた挨拶文を高橋宣教師が和訳してくださったものです。

《私の学びを、祈りと学費援助によって支えてくださった皆様に、心からの感謝を申し上げます。私はATI神学校での5年半の学びを終えました。昨年の7月から11月までで卒業論文を書き上げることができ、11

月26日に論文テストをパスしました。本当にうれしくて神様に感謝を捧げました。神様のお助けがあったからこそ、この学びを終えることができたのです。そして今年2月6日に卒業しました。私にとって言い表すことができないくらいの喜びです。



テスト終了後のニラ

今日までずっと祈りをもって支援してくださった皆様に、心から感謝いたします。神様が、いつも皆様の日々の生活とお働きを、祝福してくださいませト
うにお祈りいたします。 ニラ・シャンティヤラ》 (Nilla Shantiyara)

奨学金をお送りしていた神学生が逐次卒業期を迎えるので、代わりに大学で勉学中や、職業訓練を受けたいと願っている、信仰を持った若者を支援してほしいとの、高橋宣教師のご希望で、新しい候補者が紹介されました。

キーハジャール Kihajar 君

「私はエンティコンのムラウィ教育大学で、小学校の教師になるべく学んでいます。今、大変悩んでいることは、住んでいるエンティコンの町でアルバイトが見つからないことです。学費の必要もありますが、それよりも食費その他の毎日の出費が大きいです。それで、皆様にお祈りしていただきたいのは、必要を満たすことができる仕事が見つかるようにということです。



私は毎日とても忙しくて、時々食べるのを忘れることがあるほどです。食べてもインスタントラーメンというような食事です。私の親はとても貧しく、私のために学費を払うことができません。でも、私はあきらめません。なぜならイエスキリスト様が、私のためにいつも道を開いてくださるということを知っているからです。私は、私のように経済的に

貧しい子どもたちの模範となり、励ましとなりたいと願っています。」

高橋先生のご紹介によると・・キー君（キーと、短くよばれている）は、小学校教師を目指して、ムラウィ教育大学で2年後期の授業に入るところです。スルートゥバワン村での初めての高校卒業生。村出身の小学校教師がいないため、自分が教師になることを目指しています。高校は、アンジュンガンのATI神学校の厨房の手伝いをしながら通いました。この手紙は、2月に大学の休みを利用してアンジュンガンまでバイクで260キロもの距離を仕事探しに来た時に書いてくれたものだそうです。高橋宣教師は、デニ神学生の卒業後に、その奨学金を用いられないかと考えておられます。

ユリアヌス・ガトット Yulianus Gatot 君の証し

この証を通して、私の人生に神様が成してくださっていることをお話ししたいと思います。6年前、私はスルートゥンバワン村のグロリア寮Ⅱに住んでいて中学校に行き、この寮で私は多くのことを学びました。卒業後、アンジュンガンのATI神学校で働きながら、マンドール高校で学び、良い成績で終了できたことを感謝しています。私の出身地、グンジュマック村はマレーシアとの国境山岳地帯にあり、教育・経済などの面でまだまだ遅れている地域です。私はこの現状を改善するために、私ができることとして選んだのは、村の小学校で教師となること、そして教会学校で奉仕することです。この希望は、幸運にも地域政府から受け入れられました。グンジュマック第十六小学校には教師が6人います。徒歩で1~2時間のグントゥンバワン分校でも1,2年生のクラスが始まり、教師1人が担当



して、合計7人で120人の生徒たちを教えるのはなかなか大変です。遠く離れている日本の方々の心に、神様が働きかけてくださって、この地域の教育のために援助していただけるようになり感謝しています。地域政府から、大学で小学校教育について勉強するようにとの推薦を受けましたが、費用が十分でないし、ムラウィ教育大学の新年度の申し込みもまだなので、私の大学での学習は始まっていません。

他者の平安と共生を思いやる方々に、主が報いてくださいますように。 ガトット

グロリア寮は中学校通学が難しい遠方に住む子どもたちのための寮で、高橋宣教師の監督のもとに神学校卒業生などが寮監として奉仕しています。キーもガトットもそこでキリスト教教育を受けました。ガトットはキーの出身村よりまだ1時間余も奥の村の出身で、高校卒業後ガバンの学校に進学したかったのですが、入学金が払えず村に戻り、グンジュマック村で小学校教師補助として働いています。キーがいる大学のオープン大学（集中講義）で学んで、教師の資格を取ることになり、8月が入学時です。ニラ神学生の卒業後に、交代して支援してほしいと、高橋宣教師は望んでおられます。

西カリマンタンの SAC 里子たちは元気です

州都ポンティアナック市の SAC 事務所で指導しているサロミ・イマン (Salomi Imang) 牧師から、11月に2015年度前半の SAC 関係の活動報告が届きました

7月初めにスカダウで、西カリマンタン州の教団主催で、

子どもキャンプが開催されました。約 200 名の参加者があり、SAC の里子たちもそうでない子どもも、十代の若者も青年たちも加わって、大変なにぎわいでした。授業終了後に駆け付けた子どももいました。



フィリピ・センターと呼ばれる養護施設では、責任者エリザベスと彼女の夫が、現在 15 人の子どもたちの世話をしています。その中の 3 人が今年高校を卒業しました。彼らは出身の村へ帰って、休暇を過ごしています。

SAC に関わる宣教運動に、皆様の祈りと支援があることを心から感謝いたします。どうぞ、いつも私たちを覚えて、お祈りに加えてくださいますように。

☆子どもたちが精神的に成長し、その親たちが主イエスを救い主として受け入れることができますように。

☆SAC のプログラムに従事する働き人が、想像力とアイデアをもって、子どもたちのクリスマスカード作りなどを指導できますように。

☆教団の共に働く職員たちの間に、SAC の宣教運動のために、健全な人間関係と一致が育ちますように

~~~~~  
【理事会報告】第 189 回理事会は 2015 年 9 月 15 日 (月) 一ツ橋学会館で開催。2015 年 09, 10 月度会計報告承認。SAC6 名の欠員補完、31 名分 10 月に送金済。ガーナプロジェクト支援を継続し独自送金方法調査。

年度が替わったので、高橋宣教師経由の奨学金配布先についての変更を問い合わせる。岩崎理事から体調不良のため退任の申し出があり、お受けした。

第 190 回理事会は 2016 年 1 月 18 日 (月) 一ツ橋学会館で開催の予定であったが、降雪のため中止。

第 190 回理事会は 2016 年 3 月 14 日 (月) 一ツ橋学会館で開催。2015 年 11, 12 月度、2016 年 01, 02 月度会計報告承認。SAC 里子は今年度一応 30 名で支援継続。高橋宣教師より今年度の奨学生についての変更連絡。ガーナより現状報告。「通信」第 96 号の記事予想。岩崎元理事を顧問に願います。

第 191 理事会は 2016 年 5 月 19 日 (月) 一ツ橋学会館で開催予定。

~~~~~  
編集後記) 岩崎理事の退任はまことに残念なことです。カリマンタンへもインドのミゾラムへも訪問、支援している地域の活動を視察されましたし、クリスチャン パートナーズの報告書英訳は、海外特派員としての経験を生かして、かけがえのない奉仕をしてくださいました。今後顧問として会を支えていただけることを感謝します。 新年度が、皆様にとって実り多い豊かな日々となりますように。 鳥海百合子